

長念寺平成大改修 本堂保存修理工事

① 揚屋 → 耐圧盤



本堂を油圧ジャッキにて揚屋します。写真の青い機械は各所に配置した油圧ジャッキを一斉操作できるものです。建物の四方に人員を配置し、計画通り揚がっているか監視します。今回は2m揚げました。



建物が倒壊しないよう床下で鋼材にて補強します。この鋼材の下に油圧ジャッキをセトし、徐々に揚げていきます。ちなみに本堂の重さは約260tでした。



本堂の床下を40cm根切し、10cmの碎石を敷いています。土の搬出は小さいキャーダンプで行いました。写真の枕木の架台は全部で22カ所あり、本堂を支えています。既存の礎石にはラップコンがまいてあります。1959年の改修の際にも揚屋し、その時にラップコンを礎石にまいたと思われます。



強固な地盤にするため、鉄筋を配筋し、25cmのコンクリートを打設しました。架台を設置している部分は本堂をジャッキダウンし、取り除いた後、コンクリートを打設します。使用したコンクリートは約150m³です。

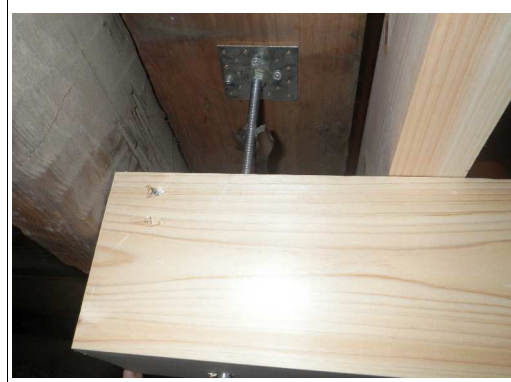
② 床組補強・床板やり替え



打設したコンクリートの上に東石を設置し、既存の大引に補強の束を立てています。また、新規で束、大引、根太も既存を残しながら入れていき、床を補強します。現状の束は≒1.8mごとに入っていますが、補強束は0.9mごとに入れます。



既存の根太の横に、補強の根太を入れています。根太の下にあり、根太と直交している材が大引です。既存の根太は床板の面のみ平らにし、側は丸太のまま使用しています。今回は床下に断熱材を敷き込むので、暑さ、寒さを緩和します。



写真は補強の大引から、金物で既存の敷居を引っ張っています。材木は時とともに反ってきます。特に樫は暴れやすいので、写真のように敷居ハールを調整し、建具が滑るようにします。

